

令和元年10月15日

報道関係者各位

佐賀県 武雄市役所

北方中学校が第34回教育奨励賞(時事通信社主催・文部科学省後援)の公益財団法人新聞通信調査会特別賞を受賞しました。

小松市長に北方中学校での取組と受賞の報告をします。

生徒一人一台のタブレットPCを利活用した新たな学びへの取組みを継続して推進してきたことや、一人一台の端末をどのように効果的に授業に活用できるのかという教員の日々の取組みやアイデア。端末を活用する上でのメディアリテラシー教育の推進などが評価されてのことです。

市内の全小中学生に一人一台の端末を与えるという、思い切った武雄市の取り組みがあったからこそその受賞であり、この環境を整えて下さった武雄市当局とそれを後押しして下さった武雄市民の皆さまに感謝の意を込めて市長に報告します。

1 期 日 令和元年10月23日(水) 10:00~10:20

2 場 所 武雄市役所4階応接室

— 本件に関するお問い合わせ先 —

武雄市立北方中学校：担当 土岐 TEL 0954-36-2069

※第34回教育奨励賞(文部科学省後援)

〈特別賞〉

佐賀県武雄市立北方中学校=情報モラルなど独自のICT教育推進

(2019.9 時事通信社佐賀支局作成)

■時事通信社教育奨励賞とは

教育奨励賞は、創造性に富んだ特色のある教育の実践に顕著な実績を上げた学校を表彰し、学校教育の一層の充実を図ってもらうことを狙い、毎年度開催されます。公募方式ではなく、全国にある時事通信社の支社・総支局などが都道府県や政令指定都市の教育委員会から協力を得て、公立の幼稚園・小・中・高校の中から候補校を選出。「授業(保育)の革新」「地域社会に根差した教育」の2テーマに沿ったさまざまな教育実践について記者が直接取材・作成したリポートを基に審査委員による厳正な審査を経て、当該学校を表彰します。

■審査方法・表彰について

全国の時事通信社の支局。総支局から各教育委員会に対象となる学校の推薦を依頼し記者が取材のうえ作成した実践リポート等を基に1次審査を行います。1次審査を通過した候補校で最終審査を行い、2校に「優秀賞」(副賞各100万円)が贈られ、うち1校には「文部科学大臣奨励賞」が併せて贈られます。

優秀賞に準ずる成果を挙げた学校には「優良賞」(副賞各10万円)が、優良賞に準ずる成果を挙げた学校には「努力賞」がそれぞれ贈られます。また、教育の今日的課題に積極的に対応している学校を対象とし、協賛団体の公益財団法人新聞通信調査会が設けた「特別賞」(副賞100万円)が1校に贈られます。

■審査委員 菱村幸彦(国立教育政策研究所名誉所員=委員長)、御手洗康(学校法人共立女子学園理事長)、児島邦宏(東京学芸大学名誉教授)、関根郁夫(東京医療学院大学学長)の各氏と高橋正光時事通信社編集局長。審査委員会専門委員として小林汎氏(元筑波大学教授)。

■表彰式・祝賀会 10月21日(月)午後5時より、受賞校校長らをご招待し時事通信ホール(東京都中央区銀座5-15-8)で行います。校長先生を含む御二人の交通費、宿泊費(東京・銀座のソラリア西鉄ホテル銀座)は時事通信社負担でご用意します。詳細は受賞校に9月末に文書を発送いたします。

■受賞校の業績は「内外教育」で詳報します。

■公益財団法人新聞通信調査会について

所在地:東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル1階

理事長:西沢豊(時事通信社前社長) URL : <https://www.chosakai.gr.jp/>

当財団は、ジャーナリズムやメディアに関するさまざまな公益事業を実施しています。事業は調査、研究から啓発、助成、顕彰など各分野にわたり、こうした事業を通じ、新聞社、通信社、テレビ、ラジオ、ネットメディアなどの発展に寄与することを目指しています。

表彰事業は、優れた国際報道に対する「ボーン・上田記念国際記者賞」と、メディアリテラシー教育に顕著な業績を挙げた学校を表彰する「教育奨励賞」の二つを行っています。

現代の子どもたちは、インターネット交流サイトをはじめとするネット上のさまざまな情報に囲まれ、悪意ある情報や不確かな情報で事件に巻き込まれることも珍しくありません。学校もいや応なく対応を迫られているのが現状です。メディアリテラシー教育の一環としてネット情報に潜む危険性や不確実性を学ばせたり、安全な対応方法を身につけさせたりする取り組みなどを対象とし、成果を上げた学校を表彰することにしました。